

序論)

さて、今日のメッセージテーマは、月間予定表では「神様について」となっていますが、神様についてと簡単にいっても、一回のメッセージで神様についてすべてをお話することなんて絶対不可能ですね。先程読んだヨブ記 11 章 7 節にも

11:7 あなたは神の深さを見極められるだろうか。全能者の極みを見出せるだろうか。

とあるように、私達が神様のことを見極める。・・・つまり、完全に理解するなんて事は絶対できないことだからです。そこで今日のメッセージを準備するにあたって神様のどの部分についてお話したらいいか悩みました。そこで思い出したのが今日のメッセージタイトルのになっている「神様はどこにおられるのか？」という質問です。

実は、これ私がインターネットを通してノンクリスチャンの方々とやり取りをしているときに、非常によく聞かれる質問です。「神様、神様っていうけど。じゃあその神様はどこにいるのか？ 神様がいる場所を教えてください僕は見に行くよ」つと、そのように言われることがよくあります。

みなさんだったらノンクリスチャンの人たちに、「神様ってどこにいるの？」って聞かれたらどのようにお答えになるでしょうか。実は、この質問に対する答えというのは大きくわけると 2 つしかないと思います。それはどのような答えになるかという、「神様はこの世界の中にいて私達のすぐ近くにいてくださる。」という答えと、「神様は天国にいて。神の国の王座についておられる」という答えです。

みなさんだったら「この世界の中にいて、私達のすぐ近くにいるよ」というのか、「神様の国にいてそこから私達を支配してくださっている」という答え、どっちの回答をされるでしょうか。

結論からいうと、この答えはどちらも正しい。ということになります。つまり、神様がどこにおられるかという、私達の世界の中にいてくださり、それと同時に私達の世界を超えた神の国において私達を導いてくださる。というのが、神様がどこにおられるのかの答えとなります。

では、なぜ、そのように言えるのか。聖書を通して確認してみましょう。

内在される神)

まずは、「神様がこの世界の中にいて、私達のすぐそばにいてくださる。」ということについて聖書を確認してみたいと思います。神様がこの世界の中におられる事を、神学用語では「神様が**内在**してくださっている」といいます。なぜ、そのようにいえるかということ、聖書の色々な箇所が神様の内在について教えてくださっているからです。幾つか読んでみましょう。

まずはエレミヤ書 23 章 24 節

23:24 人が隠れ場に身を隠したら、わたしはその人を見ることのできないのか。——【主】のことば——天にも地にも、わたしは満ちているではないか。——【主】のことば。

これは神様が世界中のすべてのところにおられて、たとえ私達人間が神様の前で隠れようとしたとしても、隠れることができない。ということをお教えています。神様はこの世界のあらゆるところにおられるから、私達は神様から逃げることはできないのです。

更に読んでいきましょう。次は使徒の働き 17 章 27-28 節を読んでみたいと思います。

17:27 それは、神を求めさせるためです。もし人が手探りで求めることがあれば、神を見出すこともあるでしょう。確かに、神は私たち一人ひとりから遠く離れてはおられません。

17:28 『私たちは神の中に生き、動き、存在している』のです。あなたがたのうちのある詩人たちも、『私たちもまた、その子孫である』と言ったとおりです。

これも神様が、私達の住んでいる世界の中におられるということをお言っていますが、こっちは神様から逃げられない。ではなくって、私達は神様の中で生きているから世界をみて神様をさがせば、神様を見つけることができる。神様は決して遠く離れたところにおられるお方ではなくって、私達のすぐ近くにおられるということを強調しています。

前回のメッセージで使った言葉で説明するならば、神様は世界を通して神様のことを知ることができるように、一般啓示をしてくださったから、私たちはこの世界の色々なものをみて、神様を感じることもできるのです。

神様はたしかにこの世界の至るところに存在されるお方です。しかし、世界を見るだけで神様を知ろうとするときに、間違いを犯してしまいます。それはどのような間違いかという、この世界の中にある色々なものを神様にしてしまうのです。

今読んだ御言葉はパウロがアテネにいったときに人々に話したことばです。じゃあ、なんでパウロがこのようにいったかという、アテネの人たちは自然の色々なものをみてなんとなく神様を感じていたのです。でも、それだけでは神様が唯一の神様であるということをおわかりませんでした。だから、彼らは色々な自然をみて、色々な神様をつくったのです。中にはどうゆう神様かわからないけど、ここには名前のない神様がいるのではないかと、思って、『知られていない神に』という字を刻んだ祭壇をつくって、礼拝をしていました。

だから、パウロは世界をみて神様を感じているアテネの人たちに対して、そのあなた達を感じている神様は、人が神殿をつくって守ってあげなければいけないような神様が何人もいるわけではなくって、この世界を造った唯一の神様のことをあなた達は感じているのですよ。 っと、そう説明したのです。

神様はこの世界の中に確かにおられて、私達はその神様から逃げることも、隠れることもできないし、世界の中で神様を探そうとすれば、確かに神様を感じることができます。でも、「世界の中に神様がいます」という理解だけだと、神様が作ったこの世界の中にある被造物。石とか、木とか、動物とかを神様扱いをしたり、「世界そのものが神様なのだ。」というようなことを言うようになってしまったりするのです。

この世界にはそうやって色々なものを神にする多神教がありますよね。日本の神道も元々はそういった多神教の考え方です。八百万の神様がおられると言うのは、多くの方がこの世界に内在されている神様をなんとなく感じているからです。

だから、色々なものに神様を感じるということ自体は、聖書的にも間違いではないのです。けれども、世界そのものや、世界の中にあるものは、神様に造られた神様の作品でしかない。ということを理解しないと正しい神様の姿がわからなくなるのです。

だからみなさん、聖書のことをよく知らない人たち、創造主なる神様のことを欲知らない人たちが、世界をみて神様を感じるといっても、頭ごなしには否定しないでください。確かに神様はこの世界の中に内在されるお方だから、私達は世界をみると神様を感じることができます。

そして、神様がこの世界の中におられるということは、神様は奇跡だけを起こすお方ではない。ということでもあるのです。これはどうゆうことかという、例えば私達がお祈りをして、誰かのガンが癒やされたとか、癩癩が癒やされたとか。そうゆう奇跡的な出来事を見たり聞いたりすると、そこに神様を感じたりすると思いますが、たとえ祈りによって癒やされたという証しがなく、普通に病院にいった薬を処方してもらって、それを飲んだら病気が治った。という普通の出来事であったとしても、神様はその極当たり前な病気がなおる過程の中にも、確かに働いておられるし、臨在されている。ということでもあるのです。

わかりやすく言うと、奇跡的な出来事だけをありがたがるのは、この世界のすべてに内在されている神様を軽んじることになるのです。みなさん、ごくごく当たり前のことの中にも神様がおられることを覚えて感謝しましょう。

それだけではありません。神様がこの世界のすべての中に臨在されているというのならば、私達はこの世界のすべてを大切に扱わなければいけないし、神様は時に神様を信じていない人、もっと言うと神様に敵対している人さえも用いて働かれることもある。ということでもあるのです。だから、みなさんイザヤ書を思い出してください。神様は、まことの神様を信じないアッシリアを用いたし、神様の敵の代名詞にもなったバビロンを使って、ユダの民を懲らしめたりしました。だから、私達は自分たちクリスチャンの中にだけ神様が働いているって思っはいけないのです。時に、神様を信じていない人の中にも神様が働いて、私達を悔い改めに導こうとされるのです。

だから、この世界に内在される神様を信じるのならば、この世界のあらゆることを通して、神様が導かれるということも受け入れていかなければいけないのです。

では、神様はこの世界の中におられるのだから、世界をみればそれでよいかというと、そうではありません。神様はたしかにこの世界の中に臨在されますが、同時にこの世界の枠を超えて存在されるお方でもあるからです。

神様の超越性)

この世界の枠を超えて存在されるということ、**神様は超越的なお方**であるといえます。だから、最初に読んだイザヤ書 57 章 15 節のみことばをもう一度読んでみましょう。

57:15 いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰

せられる。「わたしは、高く聖なる所に住み、砕かれた人、へりくだった人とともに住む。へりくだった人たちの霊を生かし、砕かれた人たちの心を生かすためである。

後半の「へりくだった人と共に住む」というのは、神様の内在をしめしていますが。前半の「いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方」とか、「わたしは、高く聖なる所に住み」というのは、神様がこの世界の枠や、私達が理解できる枠の中だけにとどまるのではなく、有限な時間の中で生きる私達の理解を超えた永遠の住まいに住んでおられ、私達の世界とは区別された聖なるところに神様が住んでおられるということを示しています。

つまり、私達の常識とか、理解とか、世界から超越したところにおられるということ。このように神様が私達の世界を超えたところにおられるお方だということも、聖書は教えています。先程読んだイザヤ書だけではなくて、例えば詩篇 113 篇 4-6 節をみてみるとこうあります。

113:4 【主】はすべての国々の上に高くおられその栄光は天の上にある。

113:5 だれが私たちの神【主】のようであろうか。主は高い御位に座し

113:6 身を低くして天と地をご覧になる。

これをみると、神様は私達と同じレベルにおられるお方ではなくって、私達の住んでいる世界を超えて高くおられるお方であり、私達と同じようなお方ではない。ということがわかります。

さきほど学んだ神様が私達の内側におられるということ突き詰めるとどうなるかということ、「神様は世界の中において、私達の中におられるのだから、奇跡なんかあるわけがないし、自分たちこそがある意味では神なんだ。だって世界の自然現象の中に神様がいて、私達の中にも神様がいるんだから、自然の営みこそ神様の営みであり、私達人間の自然なあり方こそ、神様の御心にそった生き方なんだ」そういうふうになり出してしまうのです。

でも、聖書は神様はたしかに世界や私達の中に内在されるけども、同時に私達を超えた超越的なお方でもあると教えています。

だから、私達は自然を受け入れ、この世界のあらゆるものをそのまま受け入れるだけじゃなくって、私達の思いや価値観を超えた超越的な神様を崇め、礼拝し、このお方の前で私達はへりくだらなければいけないのです。

だって、神様は私達の考えの中にも働かれるけど、私達の思いを超えたところにも臨在し、御業をなさるからです。

そのため私達は、「神様、あなたは私達には計り知ることができない偉大なお方です。私達には神様のすべてはわからないから、どうか神様が私達に神様のことを教えてください」と、このようにへりくだって神様にお願いしなければいけないのです。

当然、神様は超越的なお方ですから、時には私達の理解を超えた奇跡もなさるし、この世の自然科学では説明できないようなこともなさるのです。そして、それを受け入れるためには、「私には神様のすべてはわかりません。私は神様を見極めることができません。神様が私達の思いや理解を超えたお方であることをそのまま受け入れます。」というようにへりくだる必要があるのです。

このようにへりくだらないと、本当の聖書の神様を信じることができないし、理解することはできません。そして、この超越的な神様、私達の理解を超えた神様であるということを受け入れられないと、どうなるかということ、神様を私たちの理解ができる範囲に押し込めて、神様を過小評価してしまうのです。

その最たるものが何かというと偶像礼拝です。みなさん、偶像ってどんなものがあります？ 仏教の仏像も偶像だし、樹齢何千年もする木を神として崇めたり、聖書にでてくる例えばモアブの神ケモシュを拝んだりするのも偶像礼拝です。

でも、その偶像のもでるとなっているのは何かというと、人間であったり、動物であったり、この世界の中にある珍しい木だったりするわけです。そのため偶像礼拝というのは、この世界を超えた神様を、自分たちが理解しやすいように過小評価した結果なのです。

だから、聖書の神様、特に超越的な奇跡をする神様を受け入れようとしなかったり、自分が神様のことを納得するまでは信じないという人は、本当の神様を過小評価する罪を犯しているのです。

でも、神様が超越的なお方であるということだけで神様を理解したつもりでいると、神様は私達の思いを超えて働かれるから、自分たちがもっている理性とか、判断は意味がないものなんだ。神様から奇跡的に導かれることだけが大切なんだ。という思考になってしまい、預言とか、異言とか、奇跡とか、癒やしとか、そういうものばかりをありがたがって、私達の普通の生活の中に働かれる神様、理性的な歩

みの中に働かれる神様というのを軽んじてしまうことがあります。

よく私達が聖書の言語を調べたり、聖書の時代の背景を調べたりして、聖書が何をいっているのかを知ろうとすると、神様は霊であり、聖霊様によって理解する必要があるお方なのだから、そうやって聖書を研究することは意味がないという人がいますが、それは超越的な神様だけを強く意識してしまっているからであって、私たちの理性の内側に住まわれる内在の神様を軽んじてしまうことになるのです。

まとめ)

だから、私達は聖書を通して、神様は内在的なお方でもあり、超越的なお方でもあるということをバランスよく信じ、受け入れていかなければいけないのです。

さてでは、最初の質問にもどりましょうか。「神様はどこにいるの？」という質問に対する答えはなんでしょう？

「神様はこの世界のあらゆるところにおられ、自然の中に、私達の中におられるし、それと同時に私達の理解や思いを超えた世界。私達にはわからないところにもおられます。」というのが答えです。

だから、私達は奇跡的なことだけじゃなくって、私達の日常生活の中にも神様がおられることを感謝し、教会だけじゃなくってイエス様を信じていない人たちの中にも神様が働かれるし、何よりも神様を信じる自分たちの中におられるということを感じて、この世界のあらゆるところに神様の御業があることを受け入れる必要があります。

そして、それと同時に、神様は、自然を見るだけでは理解できない。人間の考えだけでは理解できないお方であり、私達の存在や思いを超えた世界があって、神様はそこにおられる超越的な方であることを受け入れ、自分勝手にものごとを決めつけるのではなくって、神様の前にへりくだり、『神様、私達は神様がわからない者です。だから、神様ご自身が私達に神様を教えてください、栄光を見せてください。私達は、私達の思いを超えた神様を崇め、賛美します』という気持ちで、いつも神様を礼拝し、超越的な神様の導きを謙遜にうけとっていく事が大切なのです。

みなさん、神様はみなさんの中におられます。そして、それと同時に皆さんの理解を超えたお方です。自分の中に、また、自分の周りの世界に【主】がおられることを認め、それと同時に自分には神様を見極めることなんて到底できないということを感じ、特別啓示である聖書を通して神様のみこころを、素直に受け取っていきましょう。

そのようにするときに、【主】は私達とともに住み、私達の霊を活かし、心を活かしてください。

最後にヨブ記 11 章 7 節と、イザヤ書 57 章 15 節を読んでおわりたいと思います。

11:7 あなたは神の深さを見極められるだろうか。全能者の極みを見出せるだろうか。

57:15 いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰せられる。「わたしは、高く聖なる所に住み、砕かれた人、へりくだった人とともに住む。へりくだった人たちの霊を生かし、砕かれた人たちの心を生かすためである。